
蘇える死体

ぴえろっと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蘇える死体

【NZコード】

N1492L

【作者名】

ひえろつと

【あらすじ】

三年前、汚職事件の責任を被つて自殺した男、大本。彼を、駅付近で見かけた中学生、才原。駅近くの公園に住んでいるホームレス、森岡。記者仲間からその報告を受けた一流雑誌記者、平野。平野の飲み仲間で平野からそのことを話された、下村。

才原は友人と共に、ゴールデンウイークを利用して、話し合ひ。森岡は有り余る時間を武器に、聞き込みをして回る。平野は記者として、そのことを追い回す。

下村は、半信半疑で、インターネットをこじる。

彼らはお互に、気づかぬうちに協力し合って、真実を見つめようとしている。

才原裕一郎・序

今日も、俺の学校は、ニュースの話で盛り上がりがついている。他の学年になつたことが無いので、分からぬいが、この学年は少々特殊でゲームの話題なんかより、政治の話などに花を咲かせる。

今日、話題になつているのはもちろん、汚職事件で、支持率が下っている、野党党首の公設第一秘書の自殺についてだ。

朝のニュースによると、その公設第一秘書である大本という男は『全て私の一存です』といつての、遺書を残し、首をつって自殺したらしい。

ただ、さつき聞いて回つたところ、俺の学年では、野党党首を批判する声が多く、大本はやつていないと意見が多かった。

一章一章が短くてすみません。

ホームレスってえのは、暇なもんだ。今日仲間の情報屋が持つてきた、ニュースの中で注目すべきは、やはり大本という男の自殺だろう。

情報屋は、有り余つている時間を使い、新聞の中身を記憶していく。ほぼ完全にだ。だから、俺が思うに、情報屋ってえのはホームレスになる前は相当キレるやつだつたんだと思う。

俺たちは、また、有り余つている時間を使い、そのニュースについて話し合つた。意見は大きく、一つに分かれた。

『大本の遺書は事実だ』という意見と『そうではない』という意見だ。

ちなみに、俺は後者を支持している。

平野浩一郎・序 下村沙希・序（前書き）

一人ずつだと短すぎたので、一章まとめてお送りします。

三流、とまでは行かなくとも、一流ではない。二流といったところか。

俺は二流ゴシップ誌『ダイニング』の記者だ。今は、大本氏自殺についての記事を書いている。

一流雑誌つていうものは、真実でなくとも人の気を引くタイトルをつけねばならない。俺は昔から、そう教わってきた。

それに習つて、今、スキヤンダラスなタイトルを考えているところだ。

五年ぶりにあつた神成は、多少、老けて見えた。といつても、揃つた田鼻立ちは、衰えることなく、三十三になつた今も、モテるのだろうつな、と思つた。

今日は、五年ぶりの同窓会。前回会つたときは、既に一十八だから、活気に溢れた同窓会だつたけど、今回の同窓会は、しみじみと青春を思い出すものとなつた。

神成は、中学三年生のとき出来た、私の最初の彼氏だ。私は、すでに結婚していて、子供もいるが、神成は未婚らしい。さつきも思つたけど、かなりモテると思う。

今回の同窓会には、前回来なかつた、平野が来ていた。『ダイニング』という雑誌の記者をやつしているらしい。

中学校時代、平野とはいい思い出が無かつた。私の事が、好きだつたらしい平野は、神成のことを激しく嫌つていた。

そんな思い出を語らいながら、平野とメールアドレスを交換した。今では既、いい思い出だ。

平野浩一郎・序 下村沙希・序（後書き）

前から書ねりと思つてましたが、読んでくださつてこられる方、本当に感謝しています。

ずつずつしごのは承知していますが、感想、レビュー、評価などしていただけすると、うれしいです。更新スピードも上がるかもしれません

第一幕　才原裕一郎？（前書き）

土曜は更新できません。

毎日の更新も難しいです。一日ぐらいが開いても許してください
(汗)

三日、四日なつてると、風邪などにかかった確率がありますw

第一幕 オ原裕一郎？

「ゴールデンウイークというのは、素晴らしいものだ。日々練習に明け暮れていた部員にとつては、いい息抜きだ。

とは言つても、ゴールデンウイーク中、部活が無いって言うのは、多少暇で、技術面からしても気になることが多いのだが。

久々の休日を利用して俺は駅に向かつた。

大附駅の地下には、色々な設備がある。本屋、ゲーム屋、レストラン。それ以外にもたくさんだ。

そもそも、大附駅は、大附線という、電車の線の名前にもなっている、主要地区だ。

大附線の中では珍しい、急行停車駅だし、観光スポットは無いけれど、ボウリング場、カラオケなど、設備は整っている町だ。

駅に着いた、俺はまず、ゲーム屋へ向かつた。モンキイズという名前のついたその店は気持ちの悪い、猿のマスコットキャラで有名だった。

お年玉を使う機会が無かつたので、金はたくさん持つている。俺は、ゲームを一頻り、見ることにした。

興味のあるゲームを見つけ、パッケージの裏の説明を見る。

このゲームを買おうか、そう決意したときに、誰かのひざが俺にぶつかつた。

「す、すみません」

妙におどおどとした、その態度に、若干、イラついたが、「いえ」といつて、その場は収まつた。

レジに向かつたとき、俺はその男の顔をもう一度見かけた。三年前自殺したはずの男、大本秘書のように見えたのは、気のせいだつたのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1492/>

蘇える死体

2010年10月15日01時09分発行